田舍源氏　卷十一

Gôkan:$No. 001
Inaka Genji.
Part 4. Book 3
へ 13
3742
31

東都永木園宗匠校輯

俳諧芳帙集　全二冊　板

俳諧叢蘭集　全二冊　追刻

東都永木園宗匠校輯

俳諧今人附合集　全四冊　新開板

俳諧今四歌仙　全二冊

藤室永木・柄雨・小園・四大人の俳諧を二冊に分ち俳諧者の極りなるを以て此度追刻

田舍源氏文箱　たゝらう入　上　仕立

俳同輯　諸人歌白集　開板出来

御手遊袋入　小繪さうし　種彦聞書　貞秀画

俳諧　火焚おくア　全二冊

俳諧　茶番のいろは　全二冊

俳諧　浦島爺　全三冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

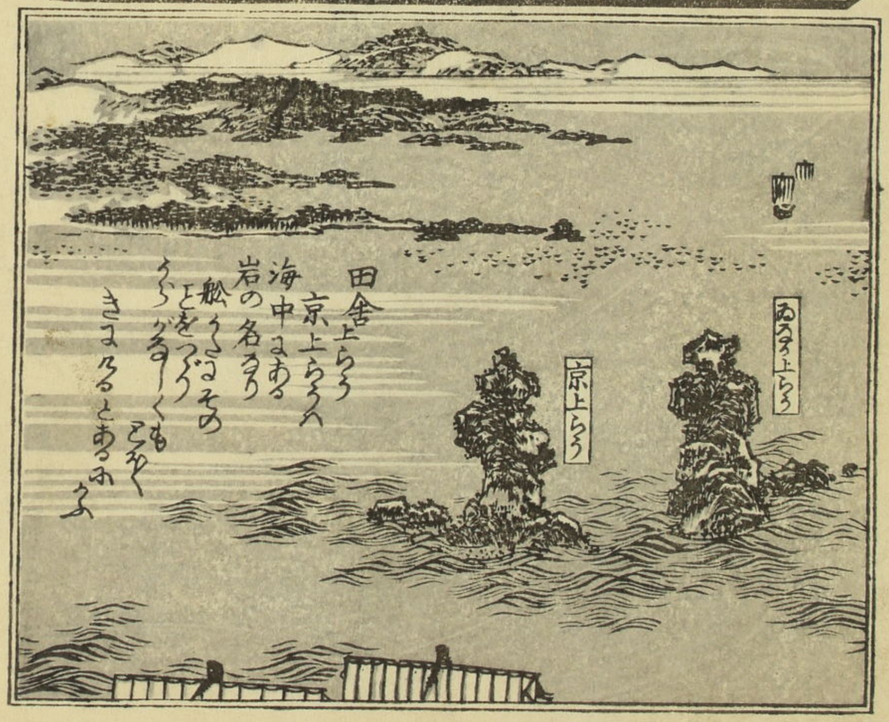
三十一編上
三十一編下

門へ13
3742
31

傳聚四會
源氏

第三十八帖

種彦作
国貞画
仙鶴堂蔵



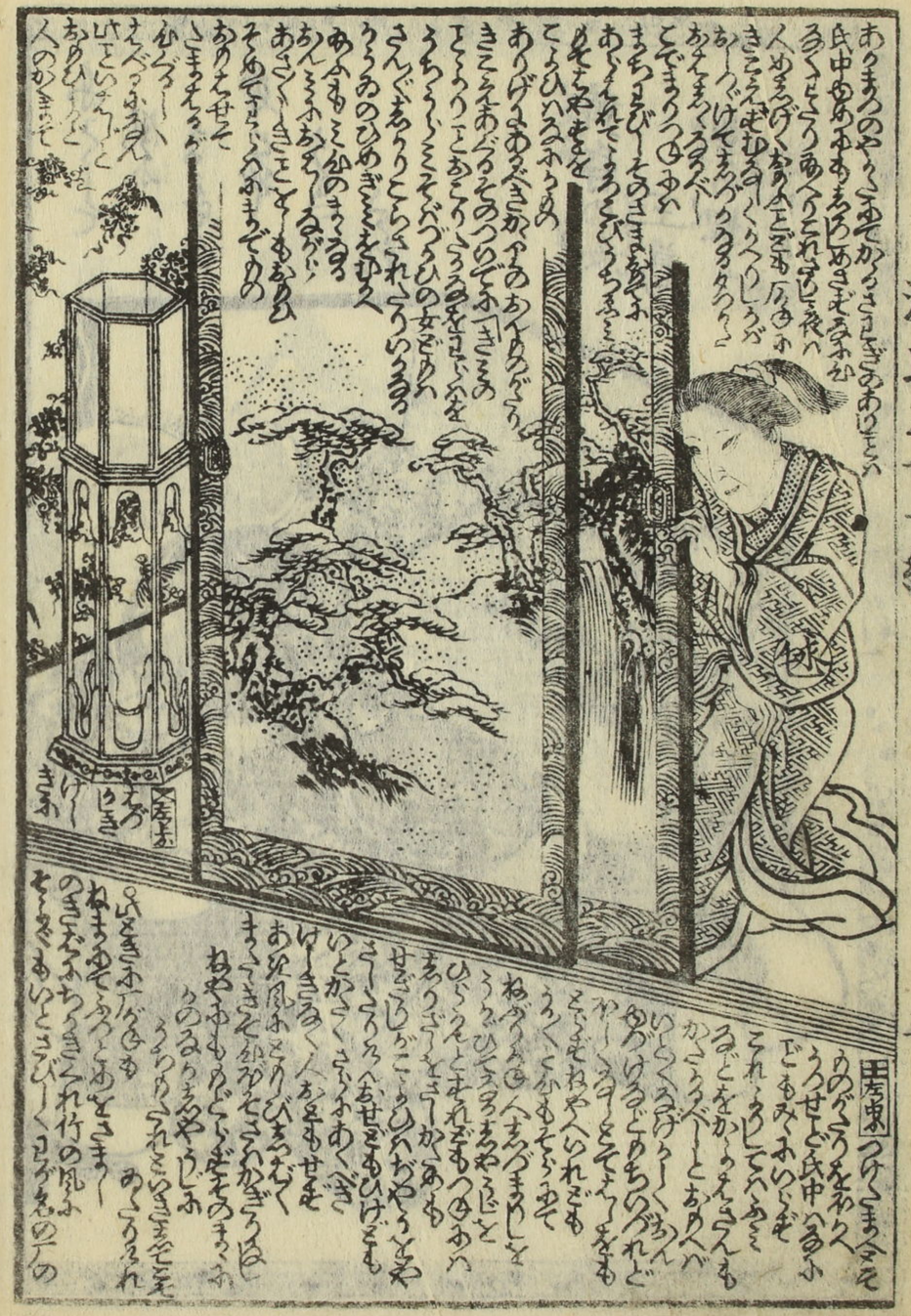
道中雙六の宮の所と源氏絵の五葛あハかるゝ船ぐあくてハるゝなど
走馬燈の花生ける岩の舟まぞもちや前ハ出しゝうゝ二挺櫓牙の安ゝる
取い後の浮舟ハ用あまべるゝく此舟画てうべと五渡亭の注文ハ
やうく梅の
つまり思ひつきうる賓船江戸ハ正月二日ゝれど京ハ
都ゝの夜ゑなれべそまとゝるゝひゝ夢物ぐゝり筑紫を出て船まぞ
浪ゝ船の者信ハよゝき便きく初瀬ゝうぞ長き船ゝ手ゝ按じても
ゝゝの眠りの月ざまゝゝき嫁向の胸ようゝぐゝハ見ハ工ハ作りざま
異ゝる冊ゝハ仕ぐゝぐゝ唯早舟のちやさを考ゝゝいそげど近づく
歳暮ひぐきの激へ物ゝある大晦日ハるゝしゝべちひゝき提燈屋やうハ
来るどいゝゝ海賊のひゝゝるあるゝうゝあゝゝゝき掛乞の追来ゝと
ゝくど更ハせんゝゝゝゝゝ鶏のうゝゝハ聲ハ少ゝきゝゝるゝちする

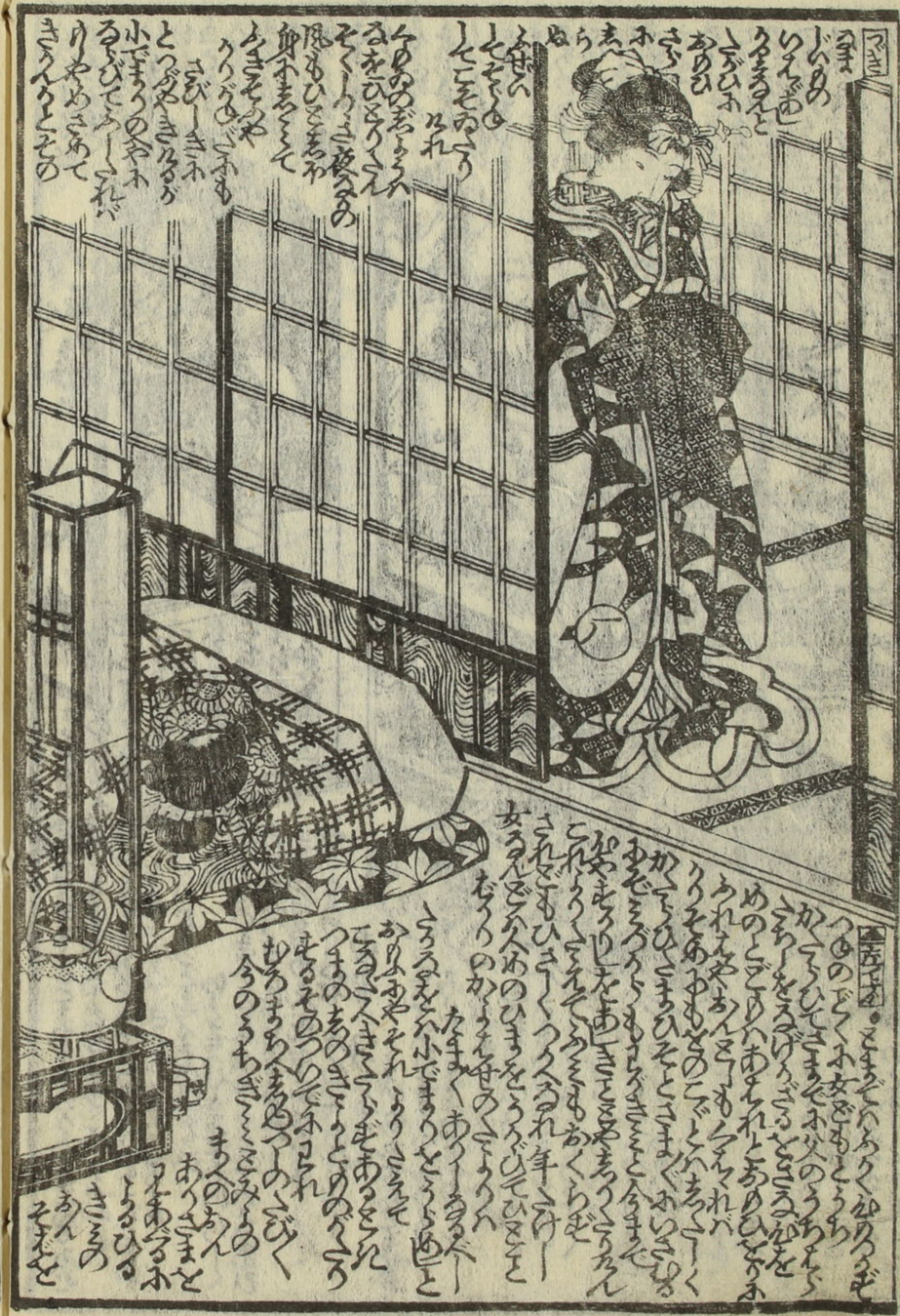
天保巳夾元旦

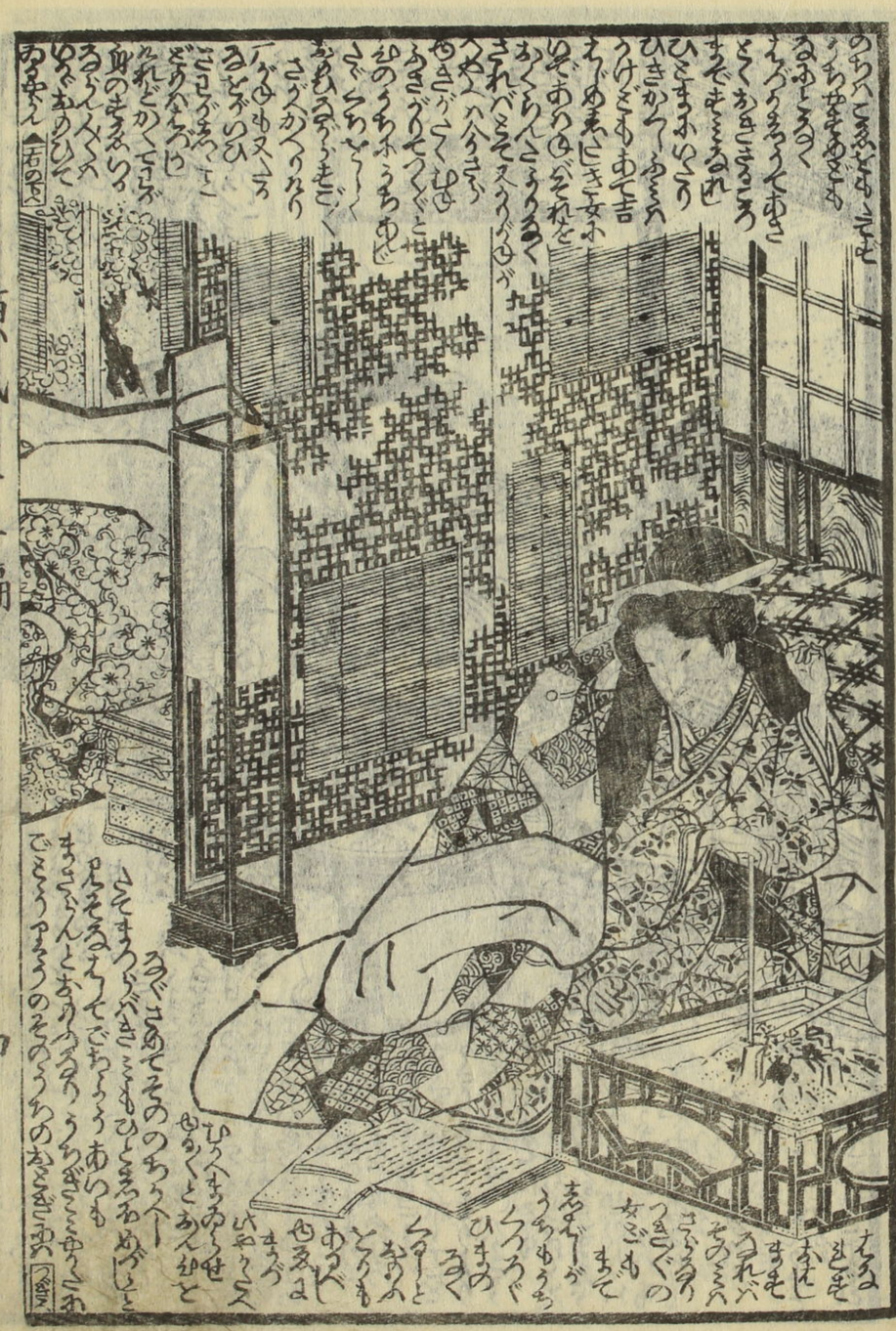
柳亭種彦記

さてもさてもこれは
波路かな

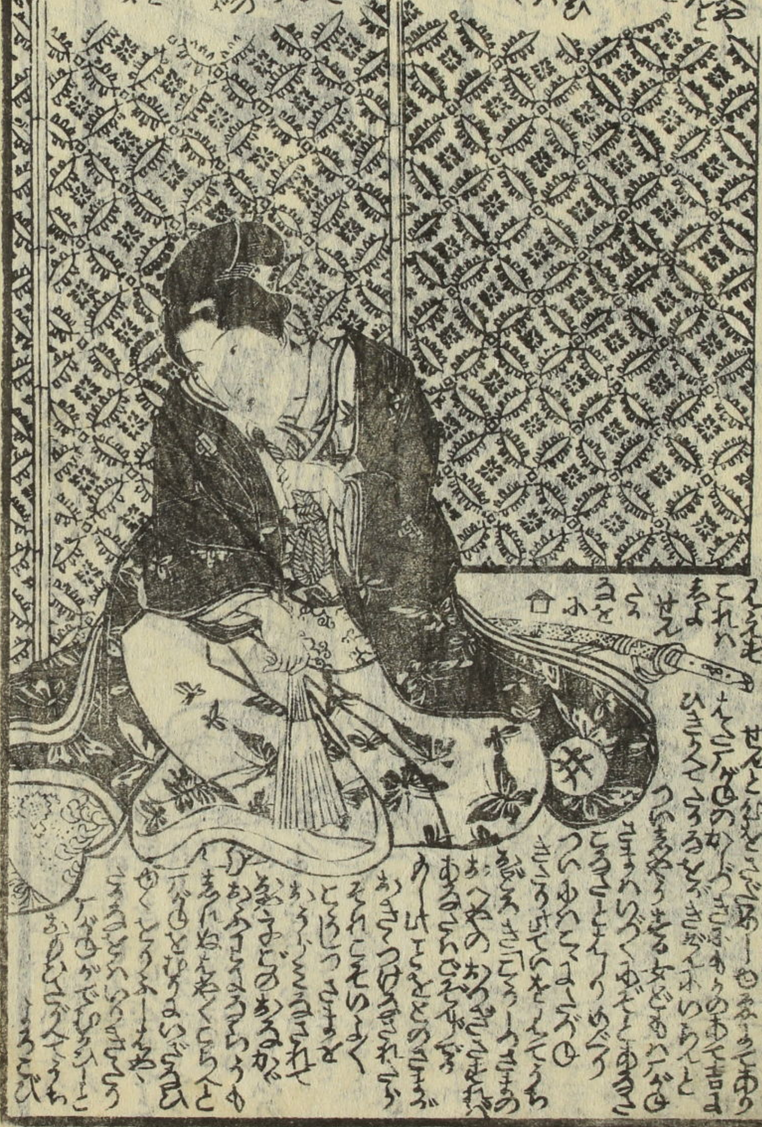
あるくして
見れば
まるまる
身をば
うき
うれ
黄昏の女王葛
夢の裡に
亡母に會

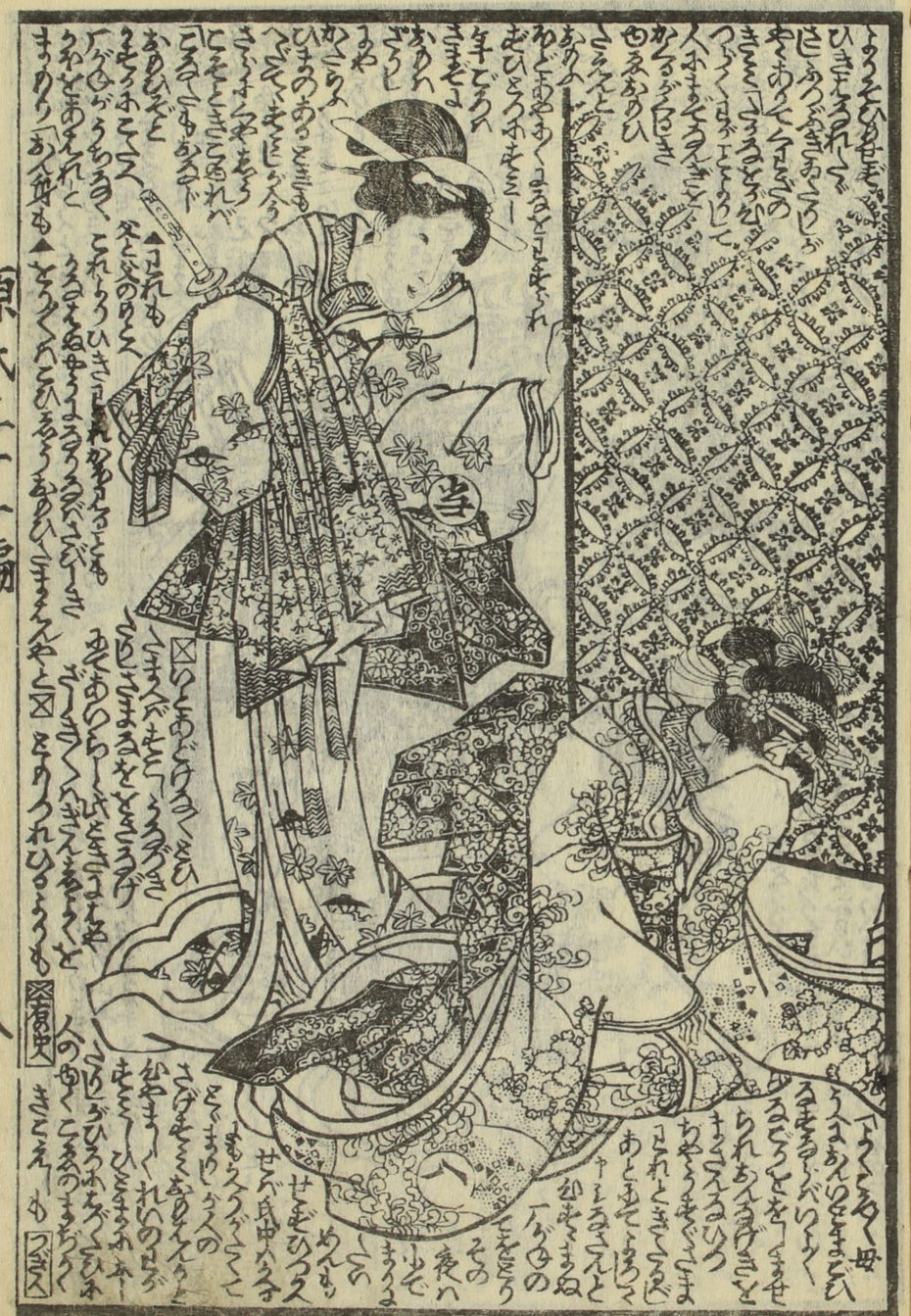






左エ門





國貞画 種彦作

現

國貞画種彦作

天保十年己亥初春新彫

傾城田舍源氏　柳亭種彦作　歌川國貞画
南華廿八編々三十三編を再板仕候に付絵師不揃

楠一代記　五冊　烏有山人作　歌川國芳画

百人一首稚講釋　山東京山作　八冊　歌川國虎画

清盛一代記　五冊　烏有山人作　歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋　緑亭仙橋作　全六冊　五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開　白雲洞主人作　全四冊　五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書替　松下樓麓谷作　全四冊　五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡　曲亭馬琴作

視藥霞引札　各再板　歌川國芳画

美艶仙女香　四十八銅
黒油美玄香　南傳馬町三丁目西側　坂本氏製

書物錦繪團扇地紙　問屋　江戸通油町　鶴屋喜右衛門